

2016年4月20日
日本板硝子株式会社

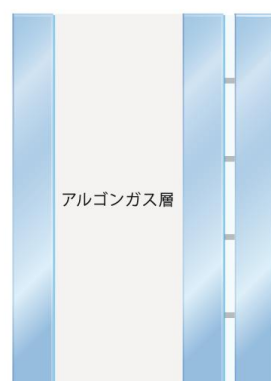
大手住宅メーカーのネット・ゼロ・エネルギーハウスで

複層真空ガラス「スペーシア 21[®]」の採用が拡大

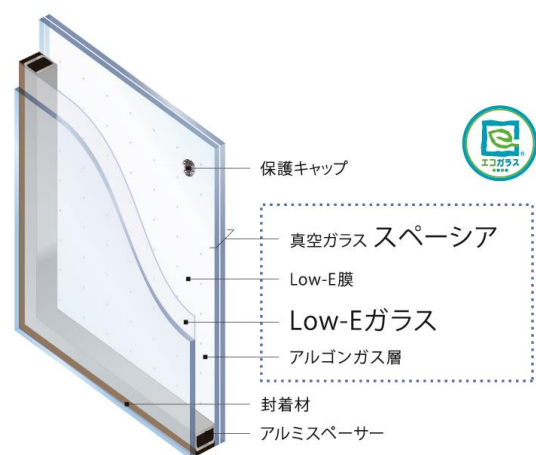
現在、全世界において、低炭素社会の構築に向け、環境負荷低減につながる先導的低炭素技術・製品に対するニーズはますます高まっており、我が国の住宅においては、国を挙げてネット・ゼロ・エネルギーハウスが推進されています。住宅の窓から出入りする熱は家全体の70%を占めているため、家全体での断熱性向上には窓の断熱化が不可欠です。当社グループが製造・販売しております、世界最高水準の断熱性を誇る複層真空ガラス「スペーシア 21」は、これまでも寒冷地向けを主として多くの住宅メーカーにご採用頂いておりましたが、今春より、戸建住宅販売で最大手である積水ハウス株式会社の、ネット・ゼロ・エネルギーハウス「グリーンファーストゼロ」では、温暖地を含めた地域にも積極的にご採用いただく運びとなりました。

「スペーシア 21」は、高い断熱性能を持つ真空ガラス「スペーシア[®]」と、Low-E（低放射）ガラスで構成された複層真空ガラスです。当製品の熱貫流率は $0.7\text{W}/\text{m}^2\text{K}$ と、わずか21mmの厚さで、グラスウール50mm厚の断熱性に匹敵し、現在新築戸建住宅に一般的に使用されているLow-E複層ガラスと比べて約2倍、ガラス3枚を使うトリプルガラスと比べても約1.3倍の、極めて高い断熱性を有するガラスです。

ガラスの間に空気やガスの層を設けて断熱性を高めている従来の複層ガラスは、元来、欧米で普及してきたものですが、真空層をも設けた「スペーシア 21」は、当社が世界に先駆けて初めて商品化した製品です。当社は、今後とも省エネルギーに貢献できる更なる高付加価値品の開発を図ってまいります。



構造図



以上